

九州・沖縄地域共生社会推進フォーラム

# 『認知症の本人とともに、暮らしやすい地域を作ろう』

～共生社会の実現を推進するための  
認知症基本法の施行を受けて～



令和7年1月10日(金)  
特別養護老人ホーム白寿園  
施設長 鴻江 圭子

# 熊本県荒尾市の概要



人口:49,096人

高齢者人口:18,115人

高齢化率:36.9%

(2024年11月末現在)

# 施設概要

所在地：熊本県荒尾市一部2122番地  
開設：1972（昭和47）年5月1日  
定員：99名  
平均介護度：4.15  
平均年齢：90.4歳

## ＜白寿園の基本理念＞

利用者主体の生活援助

安心、安全で快適な生活の継続

地域との交流及び信頼ある施設づくり

サービスの質の向上



# 社会福祉法人杏風会の概要（在宅サービス）

- 昭和55年 ショートステイ事業  
荒尾市独自のリフレッシュ事業を通して普及（三週間無料体験）
- 昭和58年 配食サービス  
一人暮らしの方に対し、敬老の日に提供
- 昭和61年 市の事業となる  
水曜日の夕食25食配食  
ミニ・デイサービス開始
- 平成 2年 デイB型開始（一般型）
- 平成 3年 訪問介護（身体介護・家事援助）
- 平成 4年 デイE型開始（認知症対応型）
- 平成 6年 在宅介護支援センター開設
- 平成12年 生活管理指導員派遣事業（ヘルパー）  
居宅介護支援事業  
生きがい活動支援通所事業（公民館を利用して）
- 平成14年 グループホーム開設
- 平成16年 白寿の家開設（逆デイサービス）
- 平成27年 認知症カフェ開設  
認知症初期集中支援チーム開設

# 社会福祉法人杏風会の取り組み

## <家族・地域に対し>

■情報開示（第三者評価 等）

■地域住民に必要な情報提供（広報誌の発行 等）

広報内容（例）：制度改正、認知症対応について

平成20年より認知症サポーター研修（市役所、小中学校、公民館 等）

■地域活動に参加

（例）公民館の福祉委員としての活動

（一人暮らしの相談、ドクターネットワークの創設、認知症ネットワーク）

■家庭介護教室（昭和63年から15回）

■ボランティア育成

■学校教育の一環

（高齢者とのふれあいを通して介護用具の使い方など）

# 荒尾市地域ケアネットワークづくり研修会



●第一回(約1000名参加)  
大会主題「安心して老いるために～荒尾から発進」  
記念講演「上手に老いるための自己点検の勧め」  
講師:厚生労働省 大臣官房参事官 石黒 秀喜 氏

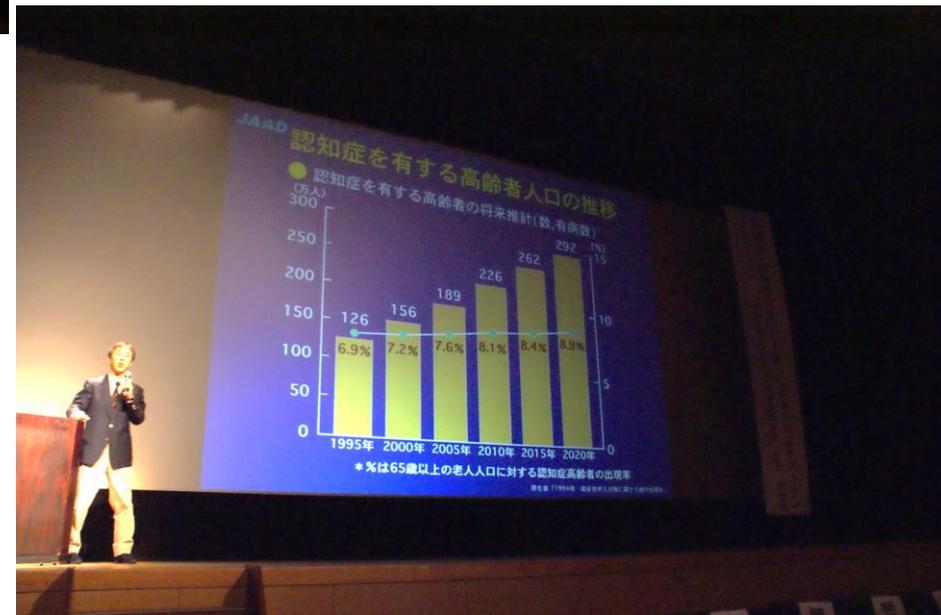
●第二回(約800名参加)  
大会主題「安心して老いるために～認知症を知ろう」  
記念講演「認知症になっても安心して暮らせるケアネットワークづくり」  
講師:熊本大学 大学院 医学薬学研究部長 池田 学 教授  
基調講演「これからの認知症対策について」  
講師:厚生労働省 老健局 計画課 認知症・虐待防止対策推進室長 井内 雅明 氏

●第三回(約200名参加)  
大会主題「安心して老いるために～高齢期の安心生活を考える」  
記念講演「そろそろ介護 「親のこと 自分のこと」」  
講師:特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」

●第四回(約600名参加)  
大会主題「安心して老いるために～人の尊厳と福祉」  
記念講演「安心して老いることができる まちづくりをめざして」  
講師:東京大学高齢社会総合研究機構 教授 辻 哲夫 先生  
基調講演「口から食べられなくなったらどうしますか?」  
講師:特別養護老人ホーム 芦花ホーム 医師 石飛 幸三 先生

●第五回(約500名参加)  
大会主題「安心して老いるために～住民主体の地域づくり」  
記念講演「住民主体の地域づくり」  
講師:柳谷自治公民館(やねだん公民館) 館長 豊重 哲郎 氏

●第六回(約600名参加)  
大会主題「安心して老いるために～認知症の正しい理解」  
記念講演「認知症の正しい理解」～レビー小体型認知症を含めて～  
講師:メディカルケアコートクリニック院長・横浜大学医学部名誉教授  
医学博士 小阪 憲司 先生



# 社会福祉法人が運営する 認知症カフェ

# 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

## 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

資料1

### ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～の概要

- ・ 高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加 2012(平成24)年 462万人(約7人に1人) ⇒ (新) 2025(平成37)年 約700万人(約5人に1人)
- ・ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。

### 新オレンジプランの基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

- ・ 厚生労働省が関係府省庁（厚生労働省、文部科学省、農林水産省、総務省）と連携して実施する。
- ・ 新プランの対象期間は団塊世代の介護保険に合わせて2017年度から2025年度とする。
- ・ 策定に当たり認知症の人やその家族など関係者から幅広く意見を聴取

認知症初期集中支援チーム  
(※平成30年度からすべての市町村で実施)

七つの柱

- ① 認知症への理解を深めるための普及啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーション法等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

認知症カフェ

# 荒尾市の認知症カフェ⇒「おれんちのカフェ」

## 「おれんちのカフェ」の外観



**平成27年9月3日オープン！**

1. 名前の由来  
認知症サポーターの  
オレンジと俺んち  
(=自分の家)を掛  
けて、カフェが自分  
の家のように安心し  
てくつろげる場所  
あってほしい

2. 荒尾市が社会福  
祉法人杏風会に事業  
委託

3. 元々は民家だっ  
た建物を活用

# 「おれんちのカフェ」の目的

1. 認知症との**出会いを早く**、そして丁寧な関わり
2. 認知症について**正しい理解を深める**場所
3. 認知症をはじめ**介護予防活動**の場
4. 認知症の人も運営に関わる、**誰もが自らが望む活動**  
ができる場所
5. **悩みが軽減**できる場所
6. **専門職との繋がる**場、互いに学び合う場所
7. **地域交流**の場所

# 「おれんちのカフェ」運営方針

1. **週2回**開催（毎週月・木曜日10時から）
2. 認知症の人及びその家族からの相談に対応できる  
**専門職の配置**
3. 認知症サポーター等の**地域住民に運営に参加**してもらうなど、地域全体で事業運営を実施すること
4. 参加者については、認知症の方、介護が必要な高齢者のみならず、障がいのある方、地域の子供たち等との**共生を図る**ことのできるような運営体制とすること
5. 認知症カフェの実施日以外についても地域住民に対し、**介護予防教室や地域サロン等**の創意工夫による施設として活用すること

# 「おれんちのカフェ」活動の様子



- 施設の家族会
- 職員のOB会
- 近隣住民
- 地区公民館長
- 認知症サポーター

※荒尾市の広報誌を通して新規ボランティアを募集

地域住民主体の実施・運営、ミーティング

# 「おれんちのカフェ」活動の様子



様々な交流・趣味活動  
(絵手紙教室)



生活に役立つ勉強会  
(悪徳商法対策)

ボランティアは様々な特技を持っている！  
ギター演奏、手工芸、編み物、カラオケ、紙芝居 など

# 「おれんちのカフェ」活動の様子



専門職による認知症や介護に関する個別相談

認知症カフェ→介護保険サービスへ

# 社会福法人実施主体の 認知症初期集中支援チーム

# 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

## 認知症の人の介護者への支援

### ① 認知症の人の介護者の負担軽減

- ・ 認知症初期集中支援チーム等による早期診断・早期対応
- ・ 認知症カフェ等の設置

【認知症カフェ等の設置】(目標新設)

新プラン: 2018(平成30)年度からすべての市町村に配置される認知症地域支援推進員等の企画により、地域の実情に応じ実施

### ② 介護者たる家族等への支援

- ・ 家族向けの認知症介護教室等の普及促進

### ③ 介護者の負担軽減や仕事と介護の両立

- ・ 介護ロボット、歩行支援機器等の開発支援
- ・ 仕事と介護が両立できる職場環境の整備  
(「介護離職を予防するための職場環境モデル」の普及のための研修等)

# 認知症初期集中支援チームの目的

複数の専門職が家族の訴え等により  
認知症が疑われる人や認知症の人及び  
その家族を訪問し、アセスメント、家族  
支援等の初期の支援を包括的・集中的  
(おおむね6ヶ月)に行い、自立生活の  
サポートを行うチーム

認知症初期集中支援チームのメンバー



医療と介護の専門職

(保健師、看護師、作業療法士、  
精神保健福祉士、社会福祉士、  
介護福祉士等)



専門医

認知症サポート医(可)

配置場所 地域包括支援センター等

診療所、病院、認知症疾患医療センター、市町村の本庁

## 【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ  
認知症が疑われる人又は認知症の人で  
以下のいずれかの基準に該当する人

- ◆ 医療・介護サービスを受けていない人、  
または中断している人で以下のいずれかに  
該当する人
  - (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
  - (イ) 継続的な医療サービスを受けていない人
  - (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人
  - (エ) 診断されたが介護サービスが中断している人
- ◆ 医療・介護サービスを受けているが  
認知症の行動・心理症状が顕著なため、  
対応に苦慮している

# 認知症初期集中支援のプロセス

認知症の早期



①相談応需

②初回家庭訪問

③チーム員会議

④初期集中支援の実施

⑤終結、引き継ぎ

⑥モニタリング



認知症初期集中  
支援チーム

〈チーム員会議〉  
医師をはじめとした  
多職種ของทีม員が、  
訪問により実施した  
アセスメントに基づ  
いて、支援方法など  
を検討する。

在宅生活の  
サポート



あれ？  
ちょっと変だなほ。

## 大事なサインです

### 認知症の早期発見のめやす

いくつか思いあたることがあればご相談を

#### ① もの忘れがひどい

- 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 同じことを何度も言う・問う・する
- しまい忘れ・置き忘れが増え、いつも探している
- 財布・通帳・衣類などが盗まれたと人を疑う

#### ② 判断力・理解力が衰える

- 料理・片づけ・計算・運転などのミスが多くなった
- 新しいことが覚えられない
- 話のつじつまが合わない
- テレビの番組の理解が出来なくなった

#### ③ 時間・場所がわからない

- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある

#### ④ 人柄が変わる

- 些細なことで、怒りっぽくなった
- 周りへの気遣いがなくなり、頑固になった
- 自分の失敗をひとのせいにする
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

#### ⑤ 不安感が強い

- 一人になると怖がったり寂しがったりする
- 外出時に持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える

#### ⑥ 意欲がなくなる

- 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで何をするのも億劫がり嫌がる

(公益社団法人 認知症の人と家族の会 作成)



### 荒尾市地域包括支援センター

荒尾市増永632番地

☎0968-63-1177

### 熊本県地域拠点型 認知症疾患医療センター 荒尾こころの郷病院

荒尾市荒尾1992番地

☎0968-62-0657

開設日/月~金

8:30~17:00

(祝日、8月13日~15日、  
12月30日~1月3日除く)

### 社会福祉法人 杏風会 特別養護老人ホーム 白寿園

荒尾市一部2122番地

☎0968-68-0176

開設日/月~日

8:15~19:00



荒尾市

**白寿園における  
認知症ケアの取り組み  
（認知症専門医の診察）**

# 認知症ケアの取り組み (認知症専門医の診察)





ご清聴ありがとうございました